

平成 30 年 10 月 29 日

飼い主を含む一般の方へ

公益社団法人 東京都獣医師会

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について

SFTS はこの病原体を保有しているマダニに咬まれることで感染する病気（感染症）です。このため、山林などに入る際にマダニに咬まれないように注意喚起されてきましたが、最近ダニによって感染したネコやイヌからヒトが感染する事例が発生しました。

現在のところ、発生は全て西日本に限られていますので、関東においてはすぐに心配な状況ではありませんが、病気の動物と接する際には注意するに越したことはありません。

ここでは SFTS について復習し、ご自身やペットが感染しないようにしていただきたいと思います。

1. 病原体と感染 重症熱性血小板減少症候群ウイルス（SFTSV）による感染症で、このウイルスを保有するマダニ類の刺咬により感染することが知られています。また、このウイルスに感染したネコやイヌからヒトが感染する事例が起きました。
2. 症状
 - (ア)ヒトの場合 潜伏期間は 6 日から 2 週間と言われており、その後発熱、消化器症状(食欲低下、嘔吐、下痢、腹痛など)が見られます。時に頭痛、神経症状などが見られます。
 - (イ)ネコの場合 発熱、消化器症状、食欲廃絶が見られたようです。
 - (ウ)イヌの場合 元気、食欲の廃絶、発熱、軟便、血便が見られたようです。
3. SFTS を疑った場合
 - (ア)ヒトの場合 ご自身が SFTS にかかったかもしれないと疑われる方は、必ず医療機関を受診して下さい。特に飼育しているペットが陽性結果の場合には、かならずそのことを病院に伝えて下さい。
 - (イ)飼育動物の場合 かかりつけの動物病院で、疑われるかどうかの検査をしてもらって下さい。疑われる場合には、国立感染症研究所などで確定検査をします。飼い主の方が直接お願いしても検査を受けられませんのでご注意下さい。必ず動物病院からお願いすることが必要です。
4. あなたが SFTS にならないために
 - (ア)山などに入る際にはダニに咬まれないように、長袖長ズボンなどを着用し、必要によってダニの忌避剤を利用しましょう。(別資料感染研マダニ対策一般用参照)
 - (イ)元気や食欲の消失、消化器症状があるなど SFTS を疑う動物と接触することを避けましょう。どうしても接触しなくてはならない場合には、眼鏡、マスク、手袋などを着用しましょう。